

条例第18条の2第2項に規定する自主規制団体からの聴き取り結果

(令和4年12月7日実施)

	図 書 名 等	聴 き 取 り 内 容
1	<p>DAITO COMICS BLシリーズ 愛重執心</p> <p>令和4年12月5日発行</p>	<p>画力があり、きれいに描かれていてストーリー性もあるが、冒頭部分から拘束や器具の使用、暴力的なシーンがあり、人格否定につながる。性器描写は白抜きになっているが体液、擬音も多く、卑わい感を与えている。指定該当。</p> <p>恋愛感情がよく分かる作品。性器描写が少なく、卑わい感はあまり感じない。しかし拘束と器具の使用、強制的なセックス描写があり人格否定と思われる。総合的に判断して成人向き。指定該当。</p> <p>二人の純粋な恋愛を描いているとしても、性行為のタイミングや方法が一般的ではない。前半の人格否定にあたる拘束レイプの描き方は文脈上は否定しており問題ないが、ページ数が多めで行為も詳細に繰り返し描いている点が気になる。性器はしっかりと修整している。総合的に判断して、成人向き。指定該当。</p> <p>全編にわたって道具の使用、身体的拘束、鞭打ちなどの人格否定的な描写がある。冒頭から薬物を混入させた飲み物で自由を奪い、同意無き性行為が繰り返される。青少年が読むには過激である。また、条例施行規則とは別に、尿道に多量のゼリーを注入したり、乳頭のピアスを引っ張ったりする行為は、万が一真似すれば身体に重大な損傷を負わせかねず、注意が必要。成人向け。指定該当。</p> <p>帯に「一生離れない、放さない」と書かれている通りの熱愛物語。作者の筆力の高さと相まって読み応えがあり、クオリティの高さを感じる。冒頭の拘束シーンの描写は人格否定ととられかねず器具の表現も生々しい。指定該当やむなし。</p> <p>冒頭の拘束シーン、器具を使っての一方的プレイ、暴力シーンは成人向きと言わざるを得ないが、性器描写などは一定の配慮がされており意見が分かれる要素もある。保留。</p> <p>ストーリーがしっかりしていて登場人物の心理状態が良く分かる。性器の描写は配慮が見られ、性描写もそれほど多いとはいえないが、冒頭と後半の暴力的なシーンや強制的なシーンはよろしくない。保留。</p> <p>性器描写の修整は配慮されているものの、器具類では露骨な表現がみられる。また、冒頭部分では薬を飲ませた上で暴力的な描写もみられる。保留。</p> <p>シリーズ作品の第4弾。本作はSM嗜好のあるカップルの話で、複雑な人間関係をあらわす表現のひとつの手段として描写が強く描かれている。この1冊だけを見ると過剰に見えるが修整はしっかりされている。シリーズ1冊で判断をしかねるため保留。</p> <p>冒頭で薬を使って道具で攻めるシーンは人格を否定する性的行為だが、性器の消しはされている。擬音、体液は多いが、セックスシーンは多くなくそんなに卑猥な感じはしない。指定非該当。</p> <p>冒頭の薬物、拘束が問題。局部は白く消してははっきり描いていないので問題はない。ストーリーはしっかり描かれており、卑わい感は少ない。尿道から液体を入れるなど危険な行為は見られるが、人格否定的描写を不当に賛美、是認しているようには読めない。指定非該当。</p> <p>性交シーンがやや多いが、性器の修整はしっかりなされているので、性的な表現面ではギリギリ青年誌レベル。冒頭の監禁シーンは、犯罪であることがしっかり表現されているのでこちらも問題なし。総合的に判断して指定非該当。</p> <p>強制的なSMシーンが冒頭にあるものの、最終的に悪人として成敗されているので、青少年の成長を阻害するとまでは感じない。一方、性的描写は体液、器具も頻出し、露骨である。性器修整は大きく白抜きされている。卑わい感の有無に迷うが、指定非該当。</p>